

(別紙)

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

| | | |
|-------------|------------|---|
| 学 校 名 | | 長崎県立長崎東中学校 |
| 生 徒 数 | | 116名 |
| 各 教 科 の 状 況 | | |
| 国語 | 概 況 改善策 | 正答率は92%と全国・県の正答率を大きく上回っている。昨年度本校や県で重点課題であった「話の展開を捉え、条件に合わせて書く」については88.7%と改善傾向が見られた。設問をよく読み、条件に従うことを折りに触れて指導し続けた結果と考えられる。その反面、「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」の項目が他の領域と比べ低かった。改善策として説明文などを読む際に文章中の事項は客観的な事実なのか、筆者の考えなのかなどを丁寧に考えさせていく。 |
| 数学 | 概 況 改善策 | 正答率は、83.0%と全国・県の正答率を大きく上回っている。図形およびデータの活用において、他の領域と比較すると低い傾向が見られた。特に、各分野に共通することであるが、「用語」の理解が不十分であると考えられる。そのことで「題意を読み間違える」、「自らの言葉で説明することができない」ことがある。「数学」=「計算する」という意識が強く、「論理的に説明する」という意識が低い。改善策としては、「用語」の重要性、「論理的に説明する」という観点において、用語の正しい理解と根拠となるものの示し方、なぜこのように考えるのかを指導するとともに、自らが考察したものを表現できるようにしていく。 |
| 英語 | 概 況 改善策 | 正答率は、80%と全国・県の正答率を大きく上回っている。読み取り、聞き取りの問題が比較的高いものに対して、文法を意識した正確な英語を書く問題での正答率が低かった。また、その分野での無回答も見られた。さらに、短い文章を読み、その概要を英文で読み取る問題も他の領域と比べて正答率が低い。改善策として、長めの文章を初見で読ませ要約をさせる、自分の考えを述べたり書かせたりするアウトプットの機会を増やしていく。 |
| 質問紙調査の状 況 | | 自己肯定感を持っている生徒の割合は昨年度より2%上昇したが、将来の夢や目標があると回答した生徒は、昨年度より8%減少した。 外国の人と友達になったり、外国のことを知りたい、日本や住んでいる地域を外国の人に知ってもらいたという項目は、全国・県平均を10%以上上回っている。同時に将来、英語をつかう生活や職業に就きたいという生徒は、全国・県平均を20%以上上回っている。 |

(別紙)

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

| | | |
|----------|--|---|
| 学校名 | 長崎県立佐世保北中学校 | |
| 生徒数 | 111名 | |
| 各教科の状況 | | |
| 国語 | 概況 改善策 | <p>平均正答率は91%（県平均69%）であった。また、「知識・技能」の正答率は89.1%（県平均69.0%）、「思考力・判断力・表現力」は、正答率92.7%（県平均69.0%）となった。正答率が85.6%と一番低い項目は「言葉の特徴や使い方に関する事項」である。</p> <p>今後は語彙のテキストを活用して、語句についての理解を高めていきたい。また、適切な言葉を使って、自分の考えを表現する力も育成する必要がある。</p> |
| 数学 | 概況 改善策 | <p>平均正答率は80%（県平均48%）であった。知識・技能を問う問題の正答率は83.9%（県平均52.0%）、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率は72.6%（県平均40.7%）であった。県や全国の平均と比較すると、データの活用の正答率が低く、四分位範囲の導出やデータ分布の傾向の読み取りが弱点だと思われる。</p> <p>今後はデータの分析の比重も大きくなることが考えられるため、対応して解答できる力を育成していく必要がある。</p> |
| 英語 | 概況 改善策 | <p>平均正答率は78%（県平均40%）であった。知識・技能を問う問題の正答率は86.4%（県平均45.3%）、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率は68.9%（県平均34.4%）であった。問題形式が記述式（2問）の正答率が33.3%（県平均10.5%）であり、他の項目と比較して低い結果となった。</p> <p>今後は特に、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く力を育成していく必要がある。</p> |
| 質問紙調査の状況 | <p>「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に、「思う、どちらかと言えば思う」と答えた生徒の割合は85.1%（県平均83.2%）であった。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に、「2時間以上」と答えた生徒の割合は82.2%（県平均36.9%）であり、ともに県平均を上回っていた。</p> | |

(別紙)

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

| | | |
|---------------|---|--|
| 学 校 名 | 長崎県立諫早高等学校附属中学校 | |
| 生 徒 数 | 117名 | |
| 各 教 科 の 状 況 | | |
| 国語 | 概 況 改善策 | 平均正答率は89%と全国・県の平均正答率を大きく上回った。設問ごとでは81.6%~92.9%に収まり、満遍なく理解できている。特に前回調査で50%台だった「情報の扱い方に関する事項」も81.6%と理解が進んだ。今後は、高校進学を見越して、古典分野へも指導内容を進めていく。 |
| 数学 | 概 況 改善策 | 平均正答率は82%で全国や県の平均正答率を大きく上回った。関数、図形分野については、特に正答率が高くなった。一方、データの活用は、正答率が70%を下回った。累積度数や四分位範囲などの用語の意味をしっかりと理解できていないことが大きな原因となっている。計算や関数に比べて復習をする機会が少ない分野なので、定期的に確認する時間を確保する必要がある。 |
| 英語 | 概 況 改善策 | 平均正答率は71.6%で、全国・県の平均正答率を大きく上回った。特に、「聞くこと」と「読むこと」は正答率が81.5%であった。「書くこと」については、まとまりのある文や自分の考えを書くことに課題が見られる。プレゼンテーションやスピーチの原稿、意見文の作成活動を通して改善を図りたい。 |
| 質問紙調査の 状 況 | 休日に学習時間を多めに確保するようなスタイルをとっている生徒の割合が多い。 1、2年生の時に受けた授業で、ICT機器を、週3回以上使用した割合が全国・県平均とも大きく下回っている。各教科担当者や担任と協議しながら改善を図っていききたい。 | |